

腸間膜静脈硬化症とは

腸間膜静脈硬化症は、大腸の壁から腸間膜の静脈にかけて石灰が沈着し、大腸の静脈の流れが悪くなる病気で、**静脈硬化性大腸炎**とも呼ばれています。



近年、漢方薬の一種であるサンシシ（山査子）の長期の服用（5年以上）が原因の一つとして注目されています。サンサシは、加味逍遙散、黄連解毒湯、辛夷清肺湯、茵ちん蒿湯などに含まれています。



症状は、腹痛（右側）、下痢、悪心・嘔吐ですが、無症状（便潜血陽性を含む）の症例もあります。また、重いものではイレウス（腸閉塞）となります。

治療は、漢方薬の中止および抗凝固薬の投与です。但し、イレウスや繰り返す重度の腹痛を呈する場合は腸管切除の考慮する必要があるとあります。



補足

＜大腸内視鏡＞

右側結腸を中心とした粘膜の色調変化（暗紫色、青銅色など）、浮腫、血管透見消失、半月襞の腫大、伸展不良、管腔狭小、びらん・潰瘍などがみられます。



<単純X線/CT>

右側結腸を中心とした大腸壁あるいは腸間膜静脈に沿った線状，点状の石灰化がみられます。



<病理組織>

静脈壁の著明な線維性肥厚と石灰化、粘膜固有層の著明な膠原線維の血管周囲性沈着、粘膜下層の高度の線維化などがみられます。